

安楽寺だより 第38号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話: 03-3451-1509 住職携帯: 090-7284-0378

発行者: 藤澤 克己 (安楽寺住職) ホームページ: <http://www.anraku-ji.org/>

(安楽寺だよりは 1月・4月・7月・10月に発行します)

新しい時代を迎えようとしています

季節は移り変わり 春爛漫らんまんとなりました。そして、もうすぐ元号が切り替わります。みなさま、いかがお過ごしでしょうか？

平成の始まりは昭和天皇崩御によるものでしたので、重苦しい空気に包まれ、また慌ただしかったように記憶しています。



しかし、今回は天皇陛下のご退位に伴う改元ですので、落ち着いてその日を迎えることができそうです。

新しい時代を迎えようとする今、期待に胸が高鳴ります。ただし、だからと言ってすべてが一新されるわけではありません。昭和・平成時代に連綿と受け継がれてきた大切なものを令和時代に調和させていくという視点を忘れてはならないと思います。

ありがとう「平成」、こんにちは「令和」!

永代経法要のご案内

日 時: **5月10日(金)** 午後1時~

お勤め: 仏説阿弥陀経

ご法話: 大來 尚順 氏

(山口県 超勝寺)

新しいご講師をお迎えします。

米国仏教大学院卒業の経験を

活かし『英語で考えるブッダ

の教え』などを著わし、翻訳やTV出演までも

幅広くこなす、ユニークで爽やかなご講師です。



《あれこれ抄》

▼平成最後の安楽寺だよりをお届けします。▼時代を象徴するかのようにイチロー選手が現役引退を発表しました▽孤独を感じ苦しんだことが未来の自分の大きな支えになったという引退会見でのエピソードが印象的でした。▼三月に終了したNHK朝の連続テレビ小説「まんぷく」は高度経済成長期の躍動感を思い出させてくれました▽何気なく食するカップ麺の誕生には工夫と苦勞の積み重ねがあったと改めて思い知らされました。▼五年後にお札のデザインが刷新されるそうです▽初めは聖徳太子だった一万円札の肖像が福沢諭吉になり、次は渋沢栄一だそうです。▼おかげさまで前住職は八十九歳、住職は五十八歳の誕生日を無事に迎えることができました。

春彼岸にようこそお参りくださいました



色とりどりの花が供えられました

春のお彼岸の頃は天候が不安定ですので、天気予報を見てお墓参りの日程調整をした方が多かったようです。一方でお参りするのは彼岸の入りとかお中日とか毎年決めている方もいらっしゃいます。

多くの方が足を運んでくださり、亡き人を偲び手を合わせ、安楽寺墓地にたくさんの綺麗な花が供えられました。

ようこそお参りくださいました。

ごはい
本堂前・向拝にお賽銭箱を常設しました



お盆のお参りについて

東京近郊のお盆参りは7月15日を中心に行われます。新盆(初めて迎えるお盆)のお宅を中心に日程を調整して住職がお参りさせていただきます。一緒にお勤めした後、お仏壇のお飾りや仏事作法の疑問・質問にお答えしています。お参りご希望の方はどうぞお声掛けください。

おかげさまで 住職を継職して10年です

2009(平成21)年5月10日に、安楽寺の第十七世住職を継職してからもうすぐ10年が経ちます。おかげさまで安楽寺の法統を無事守ることができました。この間、みなさまにはさまざまなお力添えをいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

次の10年に向けて気を引き締め臨む所存です。引き続きお力添えの程、よろしく願いいたします。



第十七世住職

今から10年前の
2009(平成21)年
「継職の儀」の様子

前住職から 過去帳
を引き継ぎました



住職コラム

「世のなか安穏なれ 仏法ひろまれ」

まもなく「令和元年」を迎えます。

平成に代わる新しい元号は「万葉集」の梅花の歌「序」にある「初春の令月にして 気よく風和らぎ」(初春の素晴らしい月で、空気は清く風は穏やか)が出典だそうです。

「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花」のように、新しい時代が希望に満ち溢れた社会になってほしいという願いが込められています。



「令和」を漢文調に読むと「和たらしむ」となります。平和な世の中にしたという意思の表れでしょう。平和とは「戦争がなく世が安穏であること」(広辞苑)ですが、戦争や紛争だけでなく、貧困や差別、不当な抑圧や偏見などから解放された状態と言えましょう。戦争のない今の時代に生きる私たちにとって平和とは心の問題であり、ともに仕合せに生きるという重要なテーマに通じると思います。

◇◇

親鸞聖人のご消息(門弟に宛てたお手紙で大切な教えが示されている)の中で

世のなか安穏なれ 仏法ひろまれ

とお示しくございました。世の中が平和であってほしい、そのために仏法が広まってほしい、とおっしゃられたのです。



◇◇

お釈迦さまの説いた仏法は、生老病死の苦しみから逃れられない「いのち」を如何に生きるかという問いから出発しています。

私たちは、思うようにならないこの世の苦しみの原因が、自己の煩惱であることになかなか気づくことはできません。このような我執(がしゅう とう)という自己中心性が、平和(安穏)でない世界を生み出し続けていると仏法は説いています。

自分は間違っていない、自分こそが正しいと思う囚われの心が、少くも他人を犠牲にしても構わないという論理にすり替わってしまうことがないでしょうか。

そうならないために仏法という叡智(えいち)が人々の中に広まり、争いの原因が囚われの心(我執)・人間の自己中心性にあると知られることが不可欠なのです。

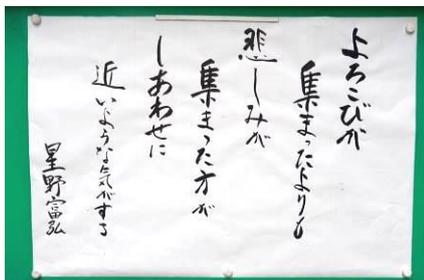
◇◇

「世のなか安穏なれ 仏法ひろまれ」と示された親鸞聖人のお心をしっかりと受け止め、お念仏申す生活を続けていきたいと思ひます。

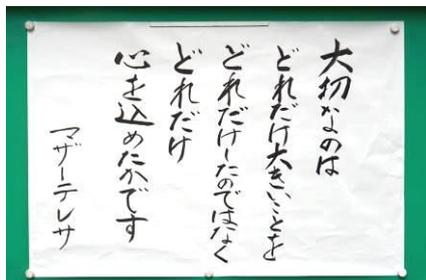
南無阿弥陀仏

月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

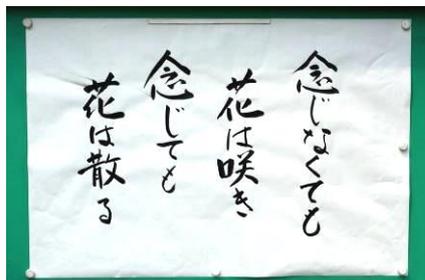
お寺の入り口に、その時々々の伝道の言葉を掲げています。(1か月毎)



2019年2月



2019年3月



2019年4月

《季節の思い出》



鉢植えの梅の花
(2月)



色とりどりのヒヤシンス
(3月)



満開のサクラ
(4月)

東京マラソン
(3月・芝公園)



カエデの新芽
(3月)



「定例法話会」の今後の予定(毎月第3日曜日 午後2時～)

伝道掲示板の言葉をもとにお話させていただきます。いつでもご参加ください。

4月21日(日) 5月19日(日) 6月16日(日)